

演題：経管栄養から経口摂取へ ～義歯製作から使用の限界～

（協力者：松阪地区歯科医師会口腔ケアステーション歯科衛生士近田紀子）

演者：浜瀬歯科室 浜瀬太郎

抄録：当院では松阪地区口腔ケアステーションからの依頼を中心に在宅や施設での歯科治療や口腔機能の管理を行っている。現場では様々な依頼があるが、難しさや限界を感じる1例として、認知症患者で長期の義歯不使用者に対する新義歯製作と使用までのフォローがある。

今回は経管栄養から「少しでも口で食事をさせてあげたい。味を感じさせてあげたい。」という家族の願いを受け

▽①リスクの説明と同意②現在の口腔機能等の評価③機能訓練と経口摂取への段階的移行④義歯製作⑤義歯の調整と使用訓練⑥食事形態の見直し▽ の段階を経て、運動機能や口腔機能、認知機能の一部改善が見られた事例を報告する。

経管栄養から一部であっても経口摂取、そして義歯使用へ。適切なタイミングで多職種連携がうまくいけば、家族や我々の期待以上の結果が得られることもある。認知症患者で長期の義歯不使用者においては義歯製作すら後ろ向きになりがちであるが、積極的に試みることの価値を再考するきっかけとなった。